

# 地区別防災カルテ 3. 南部地区

地区名：南部地区

地区番号：3

平成24年度作成

○地区の構成

中沢  
北中沢1～3丁目  
東中沢1～4丁目  
中沢新町  
道野辺  
西道野辺  
馬込沢

○地区の概要

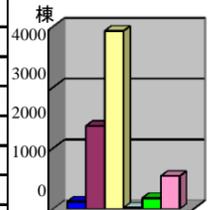
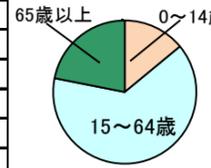
(位置) 南部地区は、市の南西部に位置し、市川市、船橋市、松戸市に隣接する。  
(地形) 地区の大部分がローム台地であり、一級河川大柏川、準用河川根郷川、準用河川中沢川、準用河川二和川が流れる。  
(土地利用) 地区内の土地利用は、北初富、馬込沢の各駅周辺の市街地、中沢地区における集落と農地及び鎌ヶ谷カントリークラブに大別され、北初富駅に近い北中沢地区では、生産緑地地区や農地が比較的多くみられる。  
(交通) 北初富駅周辺の市街地では、主要市道により地域の通過交通を処理しているものの、十分な幅員の幹線道路が限られ、地区内は急速な宅地化が進んだため、狭隘な生活道路により構成されている。  
鉄道は北初富、新鎌ヶ谷、初富、鎌ヶ谷、馬込沢の各駅が利用圏である。

○地区の位置図



○社会条件

0～14歳	2,858 人	14.0%	(対地区)
15～64歳	13,061 人	64.1%	(対地区)
65歳以上	4,462 人	21.9%	(対地区)
人口(合計)	20,381 人	18.7%	(対全市)
人口密度	4,336 人/km²		
世帯数	8,366 世帯	18.4%	(対全市)
<b>建物棟数</b>			
木造			
昭和36年以前	117 棟	2.3%	(対地区)
昭和37～56年	1,363 棟	26.5%	(対地区)
昭和57年以後	2,924 棟	56.9%	(対地区)
非木造			
昭和45年以前	18 棟	0.4%	(対地区)
昭和46～55年	175 棟	3.4%	(対地区)
昭和56年以後	539 棟	10.5%	(対地区)
建物(合計)	5,136 棟	15.6%	(対全市)



○防災関連施設

<b>避難場所</b>	屋外収容人数	<b>広域避難場所</b>	屋外収容人数	<b>高齢者福祉施設</b>
鎌ヶ谷カントリークラブ	10,700 人	(※下線は臨時ヘリポート設置予定地)		フィットネスリハこかげ(通)、優しい時間(通)、デイサービスセンター和楽(通)、シルバーハート東中沢(通)、鎌ヶ谷市南部在宅介護支援センター(居)、くらすマイル鎌ヶ谷(介)、鎌ヶ谷市南部在宅介護支援センター(居)
南部小学校	3,186 人			(介):介護付老人ホーム、(通):通所介護、(居):居宅介護、(グ):グループホーム、(特):特別養護老人ホーム、(訪):訪問介護、(サ):サービス付高齢者向け住宅、(有):有料老人ホーム、(リ):通所リハビリ、(共):共同生活介護
第四中学校	4,340 人			
耐震性貯水槽・防災倉庫	中沢スポーツ広場(貯水槽)			
	中沢スポーツ広場(防災倉庫)			
消防署				
消防団施設	第3分団			<b>障害者福祉施設</b>
警察署・交番・駐在所				鎌ヶ谷市こども発達センター、もくせい園、青空ハウス1号
病院(医科)	かまがや診療所、桜井小児科医院、ベルフラワークリニックかとう医院、道野辺診療所、片桐内科医院、永田皮膚科クリニック			児童ホーム
保育園・幼稚園	ふじ第二幼稚園、みどり幼稚園			鉄道(駅名)
学校	第四中学校、南部小学校			新京成電鉄(北初富駅)
				指定公共機関等

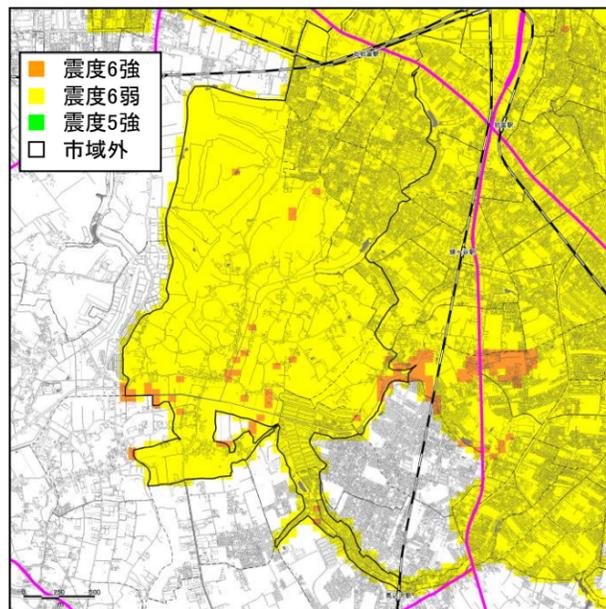
○近年の災害履歴(平成20年～24年)

水害	平成20年4月8日大雨(道路冠水1件)、平成20年5月20日台風4号(床下浸水3戸、床上浸水1戸、道路冠水2件)、平成21年8月10日大雨・洪水(床下浸水25戸、床上浸水7戸、道路冠水2件、道路封鎖1件)、平成22年9月8日台風9号(床下浸水11戸、床上浸水6戸、道路冠水12件、道路封鎖3件)、平成22年9月13日大雨・洪水(床下浸水16戸、床上浸水15戸、道路冠水6件)、平成22年12月3日大雨・洪水(道路冠水2件)、平成24年6月19日台風4号(道路冠水2件、道路封鎖1件)
土砂災害	

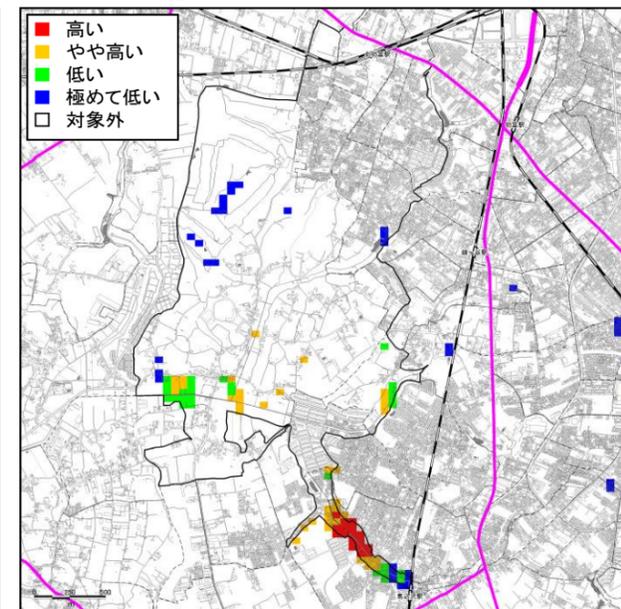
○災害予測の結果(図)

<鎌ヶ谷市直下地震(Mw7.3)の場合>

●想定される地震動の強さ

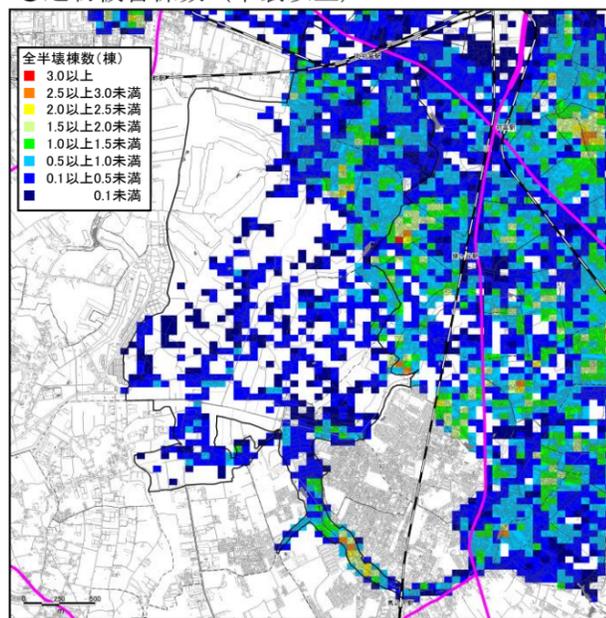


●液状化の危険性



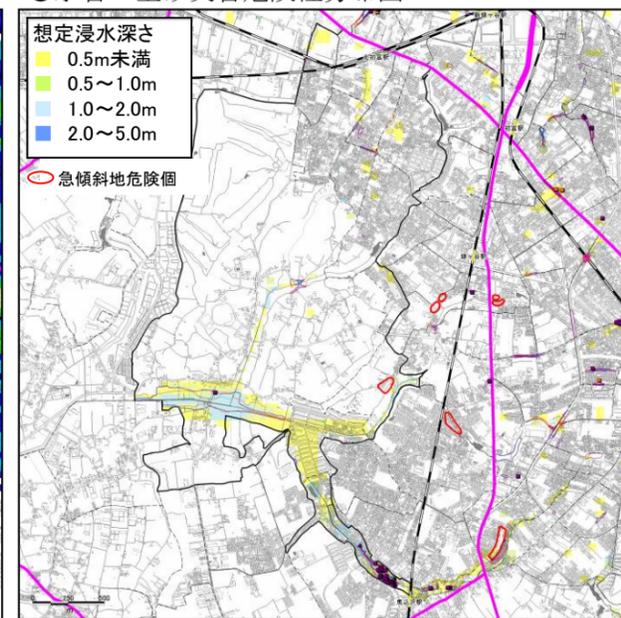
<鎌ヶ谷市直下地震(Mw7.3)の場合>

●建物被害棟数(半壊以上)



<水害・土砂災害の場合>

●水害・土砂災害危険性分布図



○災害予測の結果(概要)

項目	主な予測結果	危険度評価 →高い	概要
地震の揺れの強さ	平均震度6弱		強い揺れが予測されている。
液状化の危険性	低い		地区全体では低いですが、河川沿いの一部で高い。
建物被害	全半壊率7.9%		木造建物中心に被害が予測される。
延焼(冬18時)	建物焼失割合1.9%		住宅密集地を中心に延焼が広がることが予測される。
人的被害(冬18時)	死傷者予測数72人		主に建物被害による負傷者が予測される。
水害の危険性	危険性が高い		河川沿いを中心に浸水や道路冠水の事例が数多くある。
土砂災害の危険性	地区の南東に1箇所		土砂災害危険箇所では住宅被災の危険性がある。